

第4次 登別市社会教育中期計画

平成23年度～平成27年度



きらり
はつらつ
みちたりライフ

登別市教育委員会

社会教育中期計画の策定について

1. 策定の趣旨

社会教育の推進は第3次社会教育中期計画（平成18年度～平成22年度）に沿って推進してまいりました。

この間、価値観の変化と多様化、国際化、少子高齢化、高度の技術革新による情報化の進展など、社会情勢は複雑に推移しており、市民の生活環境や生活意識にも大きな変化が現れてきています。教育委員会では、これらの現代的な課題を踏まえ、社会の変化に対応していくための知識や知恵、また、生活の質の向上や心の豊かさを求める人々のニーズに応えるため、種々の学習情報や学習機会の提供に努め、市民の学習活動を支援してきました。

これまで、市民一人一人が生涯を通じて、いつでも自由な学習機会を選択して学ぶことにより、教養を積み視野を広げ、文化・スポーツ活動等への積極的な参画や実践が図られるなど、生涯学習に対する関心の高まりとともに活動の幅を広げております。

今後も市民の生きがいをより一層充実させるための方策に引き続き取り組むとともに、社会教育・生涯学習に関する市民の要望や地域社会の要請などに応じ、より興味・関心・希望などを充たす魅力ある学習機会を提供し、習得した知識や技能などの成果を地域社会に還元できる、いわゆる知の循環型社会の実現に取り組む必要があります。

また、地域の教育力を向上させるため、地域社会での奉仕活動、体験活動あるいは学校支援ボランティアの確立を目指すとともに、家庭教育についての不安や悩みを抱え自信を喪失し適切なしつけや指導ができない親への支援、自立の遅れや体験不足、社会性の欠如や倫理観の定着不足などの問題が指摘される青少年たちに対して、体験活動や社会参加活動の充実を図り、健全な育成に努める必要があります。

こうしたことから、本計画は「第3次登別市社会教育中期計画」における課題と本市における社会教育の現状を踏まえ、市民の生きがいを創出し、望ましい人づくりや地域づくりに寄与することを目的として、今後5年間に取り組むべき推進方策を探り、策定するものです。

2. 計画の期間

平成23年4月から平成28年3月までの5年間

3. 計画の基本的な性格

本市の社会教育を推進するための基本的・総合的な計画です。

4. 計画の特徴

活用しやすい計画とするため、次のことを考慮し策定しました

(1) 柔軟性のある中期計画

- ・実務においても活用できる計画とするため、項目ごとに目標や施策の方向性までを定めて取り組むものとしています。

これは、中期計画の策定段階で具体的事業を記載してしまうと、計画年度中の事業見直しや事業の新規展開が難しくなるという理由から、個別事業については毎年度計画できるように配慮したためです。

(2) 計画策定にあたっての意見掲載

- ・本市の社会教育における課題や現状について、社会教育委員の会議での分析を掲載しています。

目 次

計画目標、施策一覧	・・・・・・・・	1
計画		
人づくり		
青少年教育	・・・・・・・・	2
成人教育	・・・・・・・・	4
高齢者教育	・・・・・・・・	6
全世代教育	・・・・・・・・	8
家庭教育	・・・・・・・・	10
文化活動	・・・・・・・・	12
健康づくり・スポーツ	・・・・・・・・	14
学習環境の整備	・・・・・・・・	16
参考資料		
登別市の社会教育の現状と課題、今後の方策	・・・・・・・・	18
諮問文	・・・・・・・・	30
第4次社会教育中期計画の審議経過について	・・・・・・・・	32
この計画策定にあたった社会教育委員	・・・・・・・・	33

〈登別市社会教育中期計画の構成〉

基本理念	◆人々の支え合いと活気のある社会づくり
	◆知識や技能などの学習成果を地域社会に還元できる「知の循環型社会」の実現

取組項目 1 人づくり

(1) 青少年教育	目標	これからのまちづくりを担う青少年の健全な育成と地域教育力の向上
	施策	①地域の特長を生かした自然・社会・生活体験の充実 ②行政・団体・地域・企業との連携と、学校教育・家庭教育と一体化した取り組みの充実
(2) 成人教育	目標	幅広い年齢層に対応した学習活動の推進と自主学習の支援
	施策	①多様化した学習ニーズを的確に把握した学習プログラムの充実 ②各世代の方々が余暇時間を活用できる学習機会の充実
(3) 高齢者教育	目標	自主的な学びの支援と地域社会への学習成果の還元を促進する
	施策	①高齢者の知識や技術、学習成果を活用する機会の充実 ②高齢者同士や異世代との交流・連携による事業展開
(4) 全世代教育	目標	世代の枠を越えた学習や地域活動の支援と新しい公共を担う人材の育成
	施策	①学校教育と社会教育の融和による世代を越えた学習機会の充実 ②地域社会を支える人材の育成と学習成果活用の場の提供

取組項目 2 家庭教育

家庭教育	目標	親が学ぶための機会と幼児教育の充実
	施策	①関係機関等と連携した誰もが参加する機会での学習会開催 ②個人で学びや相談ができる環境づくり

取組項目 3 文化活動

文化活動	目標	文化振興基本計画の推進
	施策	文化の保護継承と市民の文化活動や文化を育む環境づくりの推進

取組項目 4 健康づくり・スポーツ

健康づくり ・スポーツ	目標	スポーツ振興基本計画の推進
	施策	生涯スポーツの推進

取組項目 5 学習環境の整備

学習環境の 整備	目標	いつでも、どこでも、誰もが学べる学習環境と学習成果を活用できる環境の整備・充実
	施策	①人材バンクの有効活用と情報機器などによる学習支援 ②多様なニーズに対応する学習機会の提供と、その成果を活用するための仕組みづくり

中期計画

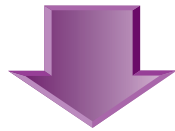
現状・課題

近年、社会が豊かで便利になる中で、子どもたちの自然体験や社会体験・生活体験が減少しているとともに、少子化の進展や人間関係の希薄化などにより、地域との関わりが少なくなっています。

子どもの頃の豊かな体験は心の成長に大きな影響を与えるため、体験型の学習や活動を広げていくこととあわせて、学校・家庭・地域、さらには各種団体や企業などとも連携して地域全体で子どもを育てるという取組を進める必要があります。

また、ふるさとで暮らし、郷土愛を育んでいくためには、自分たちの住む地域のことを知る必要があります。市内の各地域には自然や産業、NPOやボランティアグループ等によるまちづくり活動などの生きた教材がたくさんありますので、これらを活用してふるさとのことを子どもたちに知ってもらうことが大切です。

さらに、こうした取組を進めることによって、地域の教育力向上や地域社会のために活動する住民のネットワークづくりも必要です。



目標

これからのまちづくりを担う青少年の健全な育成と地域教育力の向上

施策の方向性

- ・自然、社会、生活等の体験機会を充実させるための施策
- ・地域の教育力を向上させるための施策
- ・コミュニケーション能力を向上させるための施策
- ・豊かな地域資源を活用するための施策
- ・地域づくりの基礎となる「人づくり」を充実させるための施策

重点施策

- ◆地域の特長を活かした自然・社会・生活体験の充実
- ◆行政・団体・地域・企業との連携と、学校教育・家庭教育と一体化した取組の充実

年度目標

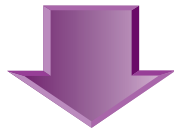
H 2 3	事業の精査	これまでの事業と地域資源を精査し、連携方策や連携先等について具体的に探ります。
H 2 4	事業の開始 連携の強化	地域資源を活用した体験学習事業を実施するとともに、連携先と一体化した取組を創造・工夫します。
H 2 5	事業の継続	青少年を健全に育成するための事業を継続します。
H 2 6	事業の検証	事業効果や参加者のニーズ、連携方策や手法等について検証します。
H 2 7	新たな展開	検証を基に事業の充実に努めるとともに、新たな連携方策等を発掘します。

現状・課題

成人世代では、年齢や職業などによって学びたいことや関心のあることが様々に分かれているうえ、仕事や家庭の都合などで学習会に参加したくても時間が合わず、参加できないことが多いのが実態です。また、知り合いのいない学習グループなどに新たに入ることへのためらいも少なくありません。

学習ニーズが多様化する中で、これらを的確に捉えることは難しいと思われませんが、当面は実施する事業の内容をわかりやすくPRし、関心のあることを効果的に学べる機会の提供に努める必要があります。

さらに、土・日曜日や夜間開催など事業日程を工夫することや、魅力あるプログラムの提供など、参加しやすい事業展開を図ることはもちろんですが、インターネットなどを活用して、誰もがいつでも学習できる仕組みについても検討することが必要です。



目標

幅広い年齢層に対応した学習活動の推進と
自主学習の支援

施策の方向性

- ・多様化している学習要求に応えるための施策
- ・日程や内容など、誰もが参加しやすい事業とするための施策
- ・余暇時間を活用して学習に取り組むための施策
- ・通信教育などの成功例を参考にした新たな仕組みづくりのための施策

重点施策

- ◆多様化した学習ニーズを的確に把握した学習プログラムの充実
- ◆各世代の方々が余暇時間を活用できる学習機会の充実

年度目標

H 2 3	ニーズの把握 事業の検討	事業内容や日程等の学習ニーズ把握に努めるとともに、対象者等について検討します。
H 2 4	事業の実施と 仕組みの検討	ニーズに対応した誰もが参加しやすい事業の実施と、新たな仕組みづくりについて検討します。
H 2 5	事業の実施と 仕組み検討の継続	工夫を凝らした事業の継続と、仕組みづくりについての検討を継続します。
H 2 6	事業の検証と 仕組みづくり	ニーズに対応した誰もが参加しやすい事業の実施と、新たな仕組みづくりについて検討します。
H 2 7	新たな展開	検証に基づく事業の深化と、新たな仕組みによる学習機会の充実を図ります。

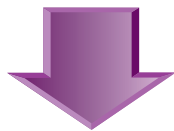
現状・課題

登別市でも高齢化は少子化と同じように進んでいますが、今や社会教育の中心は高齢者であると言えるほどに様々な場面で活動・活躍されています。

その一方で、長年の経験で身につけた豊富な知識や技術を活用する場を見出せずにいる方も多いのが現状です。

超高齢化社会の中で、高齢者の豊かな経験や知識・技術を活かす場を創ることは、社会の活性化につながります。高齢者の活力を地域社会に活かすための仕掛けや学習成果を社会に還元する仕組みづくりが求められています。

また、教養講座だけではなく、気軽に楽しみながら生活に役立つ集いへのニーズが高まってきています。活動意欲はあるものの講座には気後れして参加しにくいという方や、異世代との交流を図りながらの自主学習を求めている方も増えており、子どもや青年層を含めた学習や交流の促進が必要です。



目標

自主的な学びの支援と地域社会への学習成果の還元を促進する

施策の方向性

- ・地域社会への参加を促進するための施策
- ・活動意欲や自主性をさらに引き出すための施策
- ・交流や居場所づくりのための施策
- ・これまでに培ってきた知識や技能、学習成果を活用するための施策
- ・高齢者の経験や技術を若い世代に継承するための施策

重点施策

◆高齢者の知識や技術、学習成果を活用する機会の充実

◆高齢者同士や異世代との交流・連携による事業展開を図る

年度目標

H 2 3	ニーズの把握 事業の精査	学習要求を把握して発表機会の内容や手法について精査を行い、既存の事業を含めて再構成します。
H 2 4	事業の実施	精査に基づいて、気軽に楽しむことができる事業や活発な交流を図ることのできる事業を実施します。
H 2 5	事業の継続	発表機会の充実を図る取組や意欲的に活動できる事業を継続します。
H 2 6	事業の検証	発表の機会や手法など、ニーズに対応した事業が展開できたかどうか検証します
H 2 7	新たな展開	検証に基づいて、発表機会の更なる充実などの新たな事業展開を図ります。

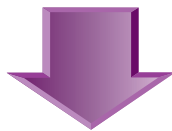
現状・課題

生涯学習は、従来の「学びの場」から、その成果を活かしたり、地域社会に還元する「学習成果活用の場」へと変わりつつあり、こうした仕組みづくりが求められています。

また、学習の成果を、まちづくりや子どもの健全育成などの市民活動に活かしている住民の割合は年々増加傾向にあり、地域社会に貢献したいという共助や自助の意識が高まっています。

こうした力を、教育や子育て、まちづくり、介護や福祉などの身近な分野で活かす、いわゆる「新しい公共」を支える仕組みづくりが必要です。

このため、学習機会提供のあり方を見直し、各種団体やNPO等と連携するとともにネットワーク化を図り、多様なニーズに応えることのできる環境づくりが必要です。



目標

世代の枠を越えた学習や地域活動の支援と
新しい公共を担う人材の育成

施策の方向性

- ・地域活動への参加を促進するための施策
- ・学校や地域がさらに連携した教育効果を高めるための施策
- ・学習成果を活用する新たな仕組みづくりのための施策
- ・地域を支える人材を育成するための施策
- ・地域性を活かして幅広い世代が参画できる施策

重点施策

- ◆学校教育と社会教育の融和による世代を越えた学習機会の充実
- ◆地域社会を支える人材の育成と学習成果活用場の提供

年度目標

H 2 3	取組の精査 取組の内容や手法、進め方等について精査し、既存事業について見直しをします。
H 2 4	取組の開始 学習成果の活用につながる取組を開始します。
H 2 5	取組の継続 内容を充実させた事業を継続します。
H 2 6	取組の検証 取組内容について検証します
H 2 7	新たな展開 検証に基づいた事業展開を図ります。

家庭教育

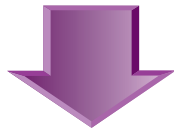
現状・課題

地域社会との関わりが薄くなるとともに価値観が変化している現代では、子どもに対して過保護になることや、逆に放任しすぎていることなどにより問題を抱えている家庭が多くなってきています。

これらの背景としては、手だてが分からないために問題を放っておく場合も多く、学習会などへの関心や参加意欲があっても、仕事や家事・育児などに忙しいため、なかなか事業に参加できない方も数多くいるという現状があります。

このことから、誰もが参加する入学時の健診や参観日などに合わせて学習会を開催するなど、親が学ぶ機会や入学前の幼児を対象にした学びの機会の充実が必要です。

さらに、日程に合わせて出かけていく学習会型のものだけでなく、時間や場所を気にせず個人的に学ぶことや相談ができる仕組みづくりが必要です。



目標

親が学ぶための機会と幼児教育の充実

施策の方向性

- ・親が学ぶ機会を充実させるための施策
- ・事業への参加が消極的な親に学びの機会を提供するための施策
- ・個人的な学びを支援するための施策
- ・気軽に相談できる体制づくりのための施策
- ・関係機関と連携した取組を進めるための施策

重点施策

◆関係機関等と連携し、誰もが参加する機会での学習会開催に努める

◆個人で学びや相談ができる環境づくりを図る

年度目標

H 2 3	ニーズの把握 連携の検討	子育て世代のニーズ等を把握することに努めて、関係機関等との連携方策について検討します。
H 2 4	事業の開始 仕組みの検討	誰もが参加しやすい事業を開始するとともに、ニーズに対応した仕組みづくりについて検討します。
H 2 5	事業の継続 検討の継続	親が学ぶ機会としての事業を継続し、新たな仕組みづくりについての検討を重ねます。
H 2 6	事業の検証 仕組みの具現化	連携方法や事業内容について検証するとともに、新たな仕組みの具現化を図ります。
H 2 7	新たな展開	連携機関の拡充や事業内容・環境や仕組みの充実を図ります。

文化活動

現状・課題

現在、登別市では市民の個性ある文化活動と文化を育む環境づくりを目指して、文化振興の基本的な考え方と施策の方向性などを取りまとめた「文化振興基本計画」（平成 17 年 3 月策定）を推進しています。

このことにより、芸術文化を鑑賞する機会の充実や文化教室の開催、埋蔵文化財の活用やアイヌ文化の振興などの部分で成果があがってきています。

しかし、文化活動を支える人づくりや伝統芸能の保存・継承など、文化を育む環境を整えることが課題となっています。

このことから、文化振興基本計画を社会教育中期計画における文化活動の施策に位置付けて、市民との協働による取組を進める必要があります。



目標

文化振興基本計画の推進

施策の方向性

- ・市民の文化活動を活性化するための施策
- ・文化活動を担う人づくりのための施策
- ・歴史の伝承と活用を進めるための施策
- ・アイヌ文化を振興するための施策

重点施策

◆文化の保護継承と市民の文化活動や文化を育む環境づくりの推進を図る

年度目標

H 2 3	
H 2 4	事業の継続 文化振興基本計画に基づく取組を継続します。
H 2 5	
H 2 6	
H 2 6	取組の点検 継続してきた取組の点検と次期計画に向けた検証を行います。
H 2 7	新たな展開 次期計画に基づいた取組を推進します。

健康づくり・スポーツ

現状・課題

現在、登別市では、だれもが、いつでも、どこでも、いつまでもスポーツに親しむことができるような生涯スポーツ社会の実現を目指して、スポーツ振興の基本的な考え方と施策の方向性を取りまとめた「スポーツ振興基本計画」（平成 17 年 3 月策定）を推進しています。

このことにより、総合型地域スポーツクラブの活動やノルディックウォーキングの普及活動など、スポーツや健康づくりに親しめる環境が整い始めてきました。

今後は、年齢層に関係なく手軽に親しめるスポーツの更なる普及や、指導者の養成をはじめ、健康づくり・体力づくりの推進や競技スポーツ、学校におけるスポーツ活動の更なる推進を図ることが課題となっています。

このことから、スポーツ振興基本計画を社会教育中期計画における健康づくりとスポーツの施策に位置付けて、市民との協働による取組を進める必要があります。



目標

スポーツ振興基本計画の推進

施策の方向性

- ・スポーツ、レクリエーション活動を推進するための施策
- ・健康づくり、体力づくりを推進するための施策
- ・競技スポーツを推進するための施策
- ・学校におけるスポーツ活動を推進するための施策
- ・スポーツ施設の整備を推進するための施策

重点施策

◆生涯スポーツの推進を図る

年度目標

H 2 3	
H 2 4	事業の継続 スポーツ振興基本計画に基づく取組を継続します。
H 2 5	
H 2 6	
H 2 6	取組の点検 継続してきた取組の点検と次期計画に向けた検証を行います。
H 2 7	新たな展開 次期計画に基づいた取組を推進します。

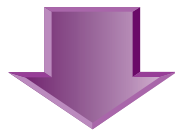
学習環境の整備

現状・課題

いつ、どこで、どのような学習機会があるのか、また、身近にどのような人材がいるのかといった学習情報の提供が求められています。これらを掲載した人材バンクを活用しやすいようにするため、設置箇所を増設することやインターネットなどを活用して情報提供をすることが必要です。

学ぶことで身につけた知識や技術は、人に教えることでより深く身に付き、そこから新たな学びへとつながっていきます。このような「知のサイクル化」によって学びを循環させる仕組みを整え、学習成果の活用を図ることが大切です。

また、パソコンなどの情報機器を活用して学習プログラムを提供するなどの新たな取組も検討する必要があります。



目標

いつでも、どこでも、だれもが学べる学習
環境と学習成果を活用できる環境の整備・充実

施策の方向性

- ・人材バンクを有効に活用するための施策
- ・多様なニーズに対応した学習機会を提供するための施策
- ・学習成果を活用できる仕組みづくりを進めるための施策
- ・情報機器などを活用した学習機会充実のための施策
- ・自主的な学習を促進する環境を整えるための施策

重点施策

- ◆人材バンクの有効活用と情報機器などによる学習支援を図る
- ◆多様なニーズに対応する学習機会の提供とその成果を活用するための仕組みづくりについて検討する

年度目標

H 2 3	人材バンクの活用 新たな仕組み検討	人材バンクの設置箇所増設等による有効活用を図るとともに、まなびを循環させる新たな仕組みについて検討を始めます。
H 2 4	学習支援方策の検討 仕組みの検討の継続	情報機器を活用した学習プログラム等について検討を始めるとともに、新たな仕組みの手法や進め方の検討を継続します。
H 2 5	支援方策検討の継続 仕組みの中間まとめ	学習支援方策についての検討を継続するとともに、まなびを循環させる仕組みについて、検討内容の中間まとめを行います。
H 2 6	支援方策と新たな 仕組みの具現化	情報機器を活用した学習プログラム等について具現化を図るとともに、まなび循環の仕組みを部分的に機能させ、課題を探ります。
H 2 7	新たな展開	学習支援方策の充実と、まなびを循環させるシステムの構築を図ります。

参 考 資 料

登別市の社会教育における 現状と課題、今後の方策

登別市の社会教育の現状と課題、方策

1 人づくり

(1) 青少年 No.1

現状	課題（反省）	方策（理念、施策の方向性）
少子化が進む中、各事業についてそれぞれ異なるが、要は青少年の健全育成を図ることにあります。 地域、学校、家庭のネットワークにより効果が現れてきているが、その反面、中学生等による非行や不良行為が目立ち、学校教育との連携も必要である。 地域や各種団体で行う事業に参加する子どもは同じ顔ぶれで、固定化されている 人員確保が難しく、部活動などの生徒にお願いする傾向がある。部活動や試合が重なると更に人手が不足する。 子どもたちが心と体を培い生きる力を身につける食は大事なことであるが、現状では親子が台所に入ることがほとんど無い。食事の体験等においても、長袖を指の所まで伸ばし、指先で野菜を洗い包丁を使う。親子で台所に立てば、今日の日の出来事を話し合うことができる。 少年の主張大会で父母の出席が少ない。各学校もっとP T Aに働きかけを。 スタディ１１０番があちこちで見受けられ、子どもたち家族にとっても安心である。	少年期に関わる各事業は地域の特色を出しながら展開しておりますが、いろいろな課題も多く有り、そんな中、文科省が推進している学校支援地域本部を各地区に設置し、地域を統轄することによって新たな展開が生まれてくるものと思われる。 親子での参加ができる工夫、事業内容のマンネリ化を見直す等P Rも必要 子ども地域交流プラザを学校区で実施すること以外に、参加者を市内全域に拡大することも考慮して良いのではないか。計画は学校区、参加は全市民 経験を通して栄養学及び調理の実習のあり方を勉強すべきと思う。 少年の主張大会の父母の出席が少ない。各学校がもっと呼びかけ子どもの主張を聞いて欲しい。 子ども１１０番の設置箇所の見直しや、地域ごとの設置マップの作成	更に学校教育との一層の連携が必要である。 各種団体でのリーダー養成 全体的に新しい事業を立ち上げるとなると難しいので、交流プラザについては、他の地域で行っている事業を見る等し時代のニーズに合ったものに見直していく。 各学校持ち回りでなく、保護者が傍聴できる土・日曜に市民会館で開催する等の工夫も必要。

登別市の社会教育の現状と課題、方策

1 人づくり

(1) 青少年 No 2

現状	課題（反省）	方策（理念、施策の方向性）
社会体験や自然体験が少ない、 自然・社会・生活等の体験学習を各団体が積極的に行っており、それなりに成果は上がっていると思うが、今後より一層の工夫が必要と思う 現実感が麻痺してしまうネットゲーム依存症が問題になっている。また、裏サイトによるいじめが大変な社会問題になっている 育成だよりの発行	様々な体験活動を通じ最近の子どもに不足しているといわれる他者とのコミュニケーション能力の向上を図る。 親の無関心で子どもが参加する機会が奪われることへの対策（家庭教育とのリンク） 郷土愛を育めるものをベースとした事業（全体としても） 学校教育には自然環境から生み出されるべき生活はほとんどないと言われています。暴力や非行の低年齢化、生きるものへの愛情の希薄さなど、自然環境への順応化が大切と考えます。 社会教育としてこの新しくかつ大きな問題に目を向けるべきか否か、判断が付きにくい 苦労をされ、郵送料等をかけて実施されているが、その効果は少ない気がします。配布であれば、登別市のHPを活用して実施でよいのでは。また、年2回の実施は適当なのか。	学校教育では充分にできない人間と自然との関わり、地域や社会の仕組み、礼儀や作法（自分と他人）等の事業を、行政と団体、地域や企業と連携して推進して行く。 市内各地域に地域の特長を生かした体験学校（教室）を設立する（通年開校、修了証書授与）

登別市の社会教育の現状と課題、方策

1 人づくり

(1) 青少年 No 3

現状	課題（反省）	方策（理念、施策の方向性）
青少年表彰受賞者がいない	青少年の年齢枠は？年齢枠を拡大して各企業、漁業、酪農、医療、観光機関等への推薦を積極的に働きかけては。 ここ数年受賞者なしの状況が続いているのに「模範となる青少年を表彰することで活動意欲・勤労意欲の向上が図られた」という記述に整合性があるのか。また、青少年表彰は事業仕分けの対象となるのでは（特化すべき青少年がいた時に表彰する等、柔軟な対応、対策は可能なのか）	青少年表彰については、各団体、中小企業にも積極的に制度の働きかけをする。 青少年表彰は、今後とも重要なので継続する。そのためには、目に見えるような働きかけが必要である。 企業や団体の優秀な人を表彰するに止めず、ボランティア等で活動している「明るくいきいきと生活している」青少年を広報や町内会にも呼びかけて推薦を促してはどうか。
青少年表彰及びジュニアリーダーコースの参加者不足	対象者の推薦がなかったり、主催者の動向を見ながら進めなければならないことは、登別市に主体性がないように感じる。 実施の有無を検討するべきである。	「人づくり」事業に取り組んでいる企業や団体も表彰対象にしてはどうか。

◎第3次中期計画の重点

- ◆目標 次代を切り開くたくましさ豊かな心をもつ青少年を育成するため各種体験活動の充実、環境の整備
- ◆施策 ①青少年に参加を促しながら自然体験活動・ボランティア活動の内容の充実を図る
②青少年が健やかに育つため学校・地域・家庭の連携・融合（融和）による取組の充実を図る

◎第3次中期計画の展開内容

・子ども地域交流プラザ事業や放課後子ども教室事業では、自然体験・ボランティア活動がボランティアによって運営され、事業を通して豊かな心が育まれた。また、学校支援地域本部事業や通学合宿などの新規事業も展開し、学校・地域・家庭の連携による取組が一層充実してきた。

登別市の社会教育の現状と課題、方策

1 人づくり

(2) 成人 No 1

現状	課題（反省）	方策（理念、施策の方向性）
市民が主役となった社会教育を目指して、いつでも、どこでも市民のニーズに応えるため学習機械の提供をしていますが、その「市民のニーズ」が何なのか見えない。 夫婦共働きの家庭が増えてきており、活動機会が少ない 各種団体の世代交代により、価値観が違ってきている 三市合同派遣からプラタナスという団体が結成されているが、参加者から大変高評価である。 つけものフェスティバルについては、団体等の実行委員会で団体・サークルだけではなく、個人も入って高校生や専門学生の審査委員も好評である 婦人短期大学・ときめき大学の生徒数の減少	参加意識はあるが、近年の経済状況では厳しいものがあり生活が優先されているので、市民の意見等を聞き参加可能な措置を講じる必要がある。また、情報の提供、参加しやすい環境づくりが求められる 市民ニーズの調査アンケート（全体としても） 若い世代の参加 プラタナスの地域活動が、何かの折りに発表またはプリントがあればその成果が広がり事業への参加者増に繋がる つけものフェスティバルの実行委員に個人の参加を求めるとともに、学生の実行委員ももっと視野が広がり世代間の交流もできる めずらしいフェスティバルだとは思いますが、縮小の傾向であれば実行委員会を中心として内容を工夫してみてもどうか。 統合を踏まえた中で抜本的な見直しを検討する必要があると記載されているが、具体的に示す必要がある。	長くやっている事業はマンネリ化しており、充実した魅力のある、参加したくなるような工夫とPRが必要 成人教育そのものが、どうなのか。「市民ニーズ」云々とあるが、抜本的に考え直さなくてはならない。 ときめき大学（高齢者）と婦人短期大学の一体化は必要。（市の事業仕分けでも指摘されている）

登別市の社会教育の現状と課題、方策

1 人づくり

(2) 成人 No 2

現状	課題（反省）	方策（理念、施策の方向性）
経済の低迷などもあり、勤務の都合などで「企画からの参加」が難しくなっている 会員数の減少など、支える人材の確保が難しい	イベントは企画への参加が活動への意欲を高めるので、企画から参加できる日程を組むように努力したい システムの構築を検討する必要がある。	
◎第3次中期計画の重点 ◆目標 市民の主体的な学習の推進 〈市民が主役となった社会教育を目指して〉 ◆施策 ①行事（事業）や学習計画などへの参加意識の高揚を図る（啓発・PRの推進） 参加者のニーズに応じ行事日程を工夫する ②市が行う行事（事業）については、企画・運営を含め、市民参加型の行事となることを目指す。 市民が自主的に行う学習活動の促進を図る。 ③市全体で行う行事の実行委員会などを活用し、団体、サークル間の交流の促進を図る。		
◎第3次中期計画の展開内容 ・ 婦人短期大学等での学習計画策定時には、学習委員となっている学生が参画し、年間の学習会の内容や時期などについて学習者自身が検討した。 ・ つけものフェスティバルにおいては、企画や運営等、事業のほとんどが関係団体・サークルで組織された実行委員会によって実施されており、市民参加型事業として定着している。 また、実行委員会の活動を通じて団体・サークル間の相互交流が図られた。		

登別市の社会教育の現状と課題、方策

1 人づくり

(3) 高齢者

現状	課題（反省）	方策（理念、施策の方向性）
登別市においても、高齢者がさまざまな場で活動・活躍している姿を多々見かけますが、まだまだ活動・活躍の場を見いだせずにいる高齢者も多い 各地域の子どもを守る取り組み等は、高齢者が主体となっている 孤独な老人が寂しさを紛らすために「催眠商法」などの集まりに足を運ぶ。何回か通ううちに友達ができ、だんだん元気になっていく。結局、被害にあうのだが。 高齢者の各種団体や趣味、サークルの発表する場がない 高齢者と小学生の交流は盛んであるが、青年との交流はやや不足気味。高齢者は昔取った杵柄知恵袋がある。また、芸能が盛んである ときめき大学	特技・資格等を持った高齢者の発掘、また、特技や資格等はないが参加し手伝いをしたい人を登録制にし、地域社会への参加の場を提供する。 〇〇大学という教養講座のほかに、もっと気軽に楽しみながら生活の向上に役立つ集いも企画する必要がある。 交流の場や、居場所づくりの整備が求められる 発表の場の提供によって活動に生きがいを得られる ときめき大学・婦人短期大学合同の勉強も異世代との交流で学ぶことがたくさんある 選択コースを増やして発表の場の提供 ときめき大学・婦人短期大学合同の学校祭で自主性を伸ばす 現状を静観しつつ見直しも必要な時期かと思います。高齢化が進むと、その分新しく補充していくのは大変な事です。	今や「高齢者」が社会教育の中心である。「青少年」との世代間交流を密にして、「お年寄り」の経験・技術を継承していくべきである。 各老人クラブで色々な知恵を持った方がいる。人材登録を検討する。 生涯学習フェスティバルは隔年ではなく毎年行うことによって、発表の場を提供する。 発表の場の提供と人材バンクの活用による地域社会への参加

◎第3次中期計画の重点

◆目標 高齢者のニーズに応じた行事（事業）の開催に努める。

◆施策 学習ニーズに応じた行事（事業）の開催に努める。

◎第3次中期計画の展開内容

・ときめき大学の学習会により、時代に応じた知識と教養を身につけ、多彩な能力や学習の成果を地域社会に活かすなど、事業実施による効果が表れているとともに、学生間による親睦や交流が図られた。

また、婦人短期大学と同様に、学習計画策定時には、学習委員となっている学生が参画し、年間の学習会の内容や時期などについて学習者自身が検討していることにより、参加者のニーズが反映できる学習会を開催した。

登別市の社会教育の現状と課題、方策

1 人づくり

(4) 全世代

現状	課題（反省）	方策（理念、施策の方向性）
世代間の交流の場が少ない 老人クラブで小学生との交流は子どもたちに人気である 高齢者は昔取った杵柄の幅広い知識の知恵があり学ぶことが多い 世代間の交流はあるのですが、与えられた空間で、シナリオに書かれたような交流に陥ってはいないだろうか 地域によって格差がある（高齢者、小中生ともに）	学校や地域と連携し取り組む必要がある 人材バンクやマイプラン講座の活用をもっと市民に周知する 高齢者の技術技能を生かせる場を提供 生活空間の中にある季節ごとの催しのときの世代間交流にも、そろそろ目を向ける必要があるのでは。 各地域でのボランティア活動や祭りへの協力・参加を促す。 町内会活動への参加 市職員や元市職員も積極的に関わって欲しい。 内容の工夫・改善を含めた中での取り組みを検討する必要がある。全世代に関わる事業が一つなので、新規事業の展開が必要	人材バンクやマイプラン講座を知らない市民もいるので、憩いの家等にも置いてもらい広く市民にPR、活用してもらう。 人材バンクの活用だが、周知徹底の必要性と、要請する市民を増やす掘り起こしも必要。 登別市は地域で環境や歴史に違いがあり、地域性の強い街です。そのせいか、地域ごとの祭りやイベントが多すぎるように思います。 そのことを踏まえて、行政が関わって整合できる事業を見直してはどうか。
◎第3次中期計画の重点 ◆目標 異世代間交流の充実 ◆施策 ・高齢者と子どもの交流については、対象者の拡大や内容の工夫・改善を加えながら、内容の充実を図る。 ・行事（事業）などを通して、青少年、成人、高齢者の交流の場づくりを図る。		
◎第3次中期計画の展開内容 ・ときめき大学及び婦人短期大学の学生と市内小学校児童の交流事業を実施しており、昔の遊びやハーモニカ・フラダンスグループ、老人クラブによる発表交流を実施した。また、青少年教育に位置づけている子ども地域交流プラザ事業や放課後子ども教室事業においても、様々な活動を通して異世代間の交流が図られた。		

登別市の社会教育の現状と課題、方策

2 家庭教育

現状	課題（反省）	方策（理念、施策の方向性）
近所付き合いの希薄化が進んでおり、孤立している 自己中心的な考えの家庭が多く仲間づくりができない 核家族で相談する人もなく、子どもを放任している家庭が増えている 共働きが多く、子どもを過保護にし、子どもの言いなりになって我慢をさせることができない 女性の社会進出や経済事情による母親のパート勤務等が多くなって、子どもと一緒にいる時間が少なくなってきた。 子どもを学校に預けっぱなし、子どもの行動・言動に無関心、親の虚栄心からの不当な競争意識等々多々見られる 問題のある家庭について、学校だけで抱え込む傾向が強いと思います。 少年期よりスポーツや音楽をしている子ども、習い事や学習塾に通っている子どもが多いのが現代社会だと思います。欠けているのは親の躰と常識感覚ではないでしょうか。	地域社会との希薄さと核家族の時代、中央がかりでなく地域の事業の取り組みも必要である 子育ての様々な場を提供してはいるが、子育てをしっかりとっている親の参加はあるが子育てのできていない親の参加がない。「参加してこない親」子育ての無知や無関心が課題だと思います。 学校機関との情報交換や地域での支援体制を促進すべき。（問題家庭） 地域で子どもを育てる重要性がより増してきている。それぞれの地区独自の行事や企画への支援も必要になってきているのでは。 子どもの居場所づくりが求められる 親子で読書の習慣が必要 男女共同参画社会事業とのタイアップを視野に入れ、対象を父親にも広げた事業展開があってもよいのではないかな。 家庭教育講演会、研修会、勉強会等を授業参観日に合わせて行う事を考え工夫するべき。参加率は高いと思う。	学校の空き教室を使っ、の、子育てに関する様々な支援の強化（子どもの居場所づくりや仲間づくりなど） 就学前の子育てサークルにも目を向け、連携が必要。将来を担う幼児へも関心を持つ。（民間だから薄いのか） 全生活の基盤が「家庭教育」である。精神面ばかりでなく、制度的にも必要である。（現在実施されているものの充実でも） 父母が積極的に関わり、しっかりと親の責任を果たすべきである。

登別市の社会教育の現状と課題、方策

2 家庭教育

現状	課題（反省）	方策（理念、施策の方向性）
家庭教育学級の作品展開催 家庭教育学級について 明日をひらく窓	実施趣旨が良く理解できない。行わなくても問題はないのではないか。以前は実行委員会を組織して講演会を行ったが、人を集めることに苦勞した。 参加者の固定化があり、参加していない・できない方をどのように参加できる環境にするか検討しなければならない。 小学校への繋がりとして、就学期間中に1回は家庭教育学級に参加するなど考えてはどうか。参加者には修了証書を渡す。以前は実施していたと思うが。 QRコードで登録し電子媒体で閲覧できる仕組み作りを考えてはどうか。また、発行に関する成果の検証方法はどうかあるべきか。	家庭教育学級の充実
◎第3次中期計画の重点 ◆目標 家庭の教育力向上のための学習支援の強化、充実 ◆施策 ・関係機関、団体と一体となって、あらゆる子育て・家庭教育に関する施策の充実を図る。 ・子育てや家庭の教育に関する学習を集団で自主的に行えるよう家庭教育学級等への支援の充実を図る。 ・親子で参加できる取組の充実を図る。		
◎第3次中期計画の展開内容 ・各小学校、幼稚園において家庭教育学級を開設するとともに、子育てや家庭での教育についての講演会を開催して親同士の交流や学習の機会を提供した。		

登別市の社会教育の現状と課題、方策

3 条件整備

現状	課題（反省）	方策（理念、施策の方向性）
例年のごとく事業が重なる 社会教育委員の活動 情報の発信・収集等	年間軸の予定を各団体サークルに配布を 社会教育委員の各種枠の参加見学が望ましい ＨＰの工夫 団体・サークル活動への開催会場や施設の相談・提供にも関わっていく。 学校支援地域本部事業も展開されていることから、条件整備情報の収集に努め、人材バンク等の整備を一層進めながら学習者の意欲の高揚める事業展開を工夫する 教育委員会及び登別市としての包括的な人づくりのビジョン・具体策が見えない。その中で個別政策を議論することは非常に難しいものがある。 新しいコミュニティ制度（地域通貨・新人材バンク制度）を創りあげることで講師・人員・人材などの確保と活用が図れるのではないかと考える。	社会教育施設等を観たり、事業等もできる限り参加体験し、現状や課題を把握する。 全般的にＰＲ不足なので、積極的なＰＲが必要 全世代を通して、地域・学校・家庭が連携される、学校支援地域本部事業の設置を図る。できるだけ統括して市民に啓蒙し、効果が上がるよう事業展開すべきである。 市内全家庭に周知し、得意分野またはお手伝いできる分野で人材登録をする。活動範囲は市内全域とし、人材登録をして活動した時間を、雪かき・肩たたき・お使いなどの便利券を使用できる単価として計算して地域通貨預金できる。小中学生は、ボランティア体験を卒業までに必ず行い、学校成績に相当する評価の一つとする。卒業までの間にボランティア体験として指定された事業または地域通貨で便利券を利用する人のお手伝いをもって単位取得とす

◎第3次中期計画の重点

◆目標 いつでも、どこでも、誰もが学べる学習環境の整備・充実

- ◆施策 ①学習ニーズの把握と的確な学習情報の提供に努める。
行事（事業）のPRの徹底を図る。
②学びを発表する場の充実を図るとともに、講師（指導者）としての参画を促進する。

◎第3次中期計画の展開内容

- ・学習会や事業の都度、参加者アンケートを実施し、学習ニーズの把握に努めた。
- ・生涯学習人材バンクを改訂して教育委員会のホームページに掲載及び公共施設に設置したほか、生涯学習ニュースを発行して情報発信に努めた。
- ・生涯学習フェスティバル（隔年実施）や学習会での成果発表会を設定するなど、学習成果を発表する機会の充実を図った。
- ・市の広報や報道機関を活用して生涯学習事業の情報提供に努めた。

**諮問文・審議経過
及び
社会教育委員名簿**

(写)

登 教 社 第 1 8 4 号
平成 2 2 年 7 月 2 8 日

登別市社会教育委員の会
委員長 川 島 芳 治 様

登別市教育委員会
委員長 松 村 昌 孝

第 4 次登別市社会教育中期計画の策定について「諮問」

このことについて、将来を展望した本市の社会教育施策推進のための第 4 次登別市社会教育中期計画の策定について、別紙諮問文により社会教育委員の会議に諮問いたしますので、ご検討のうえ答申くださいますようお願い申し上げます。

記

1. 答申予定期日 平成 2 3 年 2 月
2. 計 画 の 期 間 平成 2 3 年 4 月から平成 2 8 年 3 月（5 箇年）

諮 問 文

(理 由)

現在、本市の社会教育は第3次社会教育中期計画（平成18年度～平成22年度）に沿って推進されているところであります。

この間、価値観の変化と多様化、国際化、少子高齢化、高度の技術革新による情報化の進展など、社会情勢は複雑に推移しており、市民の生活環境や生活意識にも大きな変化が現れてきています。教育委員会では、これらの現代的な課題を踏まえ、社会の変化に対応していくための知識や知恵、また、生活の質の向上や心の豊かさを求める人々のニーズに応えるため、種々の学習情報や学習機会の提供に努め、市民の学習活動を支援してきたところであります。

これまで、市民一人一人が生涯を通じて、いつでも自由な学習機会を選択して学ぶことにより、教養を積み視野を広げ、文化・スポーツ活動等への積極的な参画や実践が図られるなど、生涯学習に対する関心の高まりとともに活動の幅を広げております。

この第3次社会教育中期計画は、平成22年度で最終年度を迎えますが、今後も市民の生きがいをより一層充実させるための方策に引き続き取り組むとともに、社会教育・生涯学習に関する市民の要望や地域社会の要請などに応じ、より興味・関心・希望などを充たす魅力ある学習機会を提供し、習得した知識や技能などの成果を地域社会に還元できる、いわゆる知の循環型社会の実現に取り組む必要があります。

また、地域の教育力を向上させるため、地域社会での奉仕活動、体験活動あるいは学校支援ボランティアの確立を目指すとともに、家庭教育についての不安や悩みを抱え自信を喪失し適切なしつけや指導ができない親への支援、自立の遅れや体験不足、社会性の欠如や倫理観の定着不足などの問題が指摘される青少年たちに対して、体験活動や社会参加活動の充実を図り、健全な育成に努める必要があります。

このことから、本市における社会教育活動が市民の生きがいを創出し、望ましい人づくりや地域づくりに寄与することを目的として、第3次社会教育中期計画の見直しを進め、平成23年度以降の適切な推進方策を導き出す「第4次社会教育中期計画」の策定をお願い申し上げます。

○計画策定の観点

登別市社会教育振興のための社会教育中期計画について

○計画の期間

平成23年4月から平成28年3月（5箇年）

第４次社会教育中期計画策定の審議経過について

《平成２２年度》

① 第１回社会教育委員の会議（７月２８日）

内容：教育委員会から社会教育中期計画の策定について諮問
新計画策定に向けての考え方及び今後の進め方について

※市民アンケートの実施

② 第２回社会教育委員の会議（８月３１日）

内容：登別市における社会教育の現状と課題について
市民アンケートの分析について

③ 第３回社会教育委員の会議（９月２７日）

内容：現状と課題を踏まえた今後の方策について
新計画の骨子案の検討について

④ 第４回社会教育委員の会議（１１月３０日）

内容：新計画の素案について
パブリックコメントの実施について

※パブリックコメント（意見公募）の実施

⑤ 第５回社会教育委員の会議（１月２４日）

内容：パブリックコメントの実施結果について
新計画の答申案について

⑥ 第６回社会教育委員の会議（２月２２日）

内容：第４次社会教育中期計画案の答申について

この計画策定に当たった社会教育委員

氏名	公職等	選出区分
八田敏史	登別市立富岸小学校校長（登別市校長会）	学校教育の関係者
木村義恭	登別市私立幼稚園協議会事務局長	学校教育の関係者
小林 浩	登別市PTA連合会会長	社会教育の関係者
亀山聖	登別市子ども会育成連絡協議会会長	社会教育の関係者
小塚順一	登別市文化協会事務局長	社会教育の関係者
山田純一郎	登別市体育協会副会長	社会教育の関係者
工藤織枝	登別室蘭青年会議所	社会教育の関係者
池畠泰彦	登別市老人クラブ連合会会長	社会教育の関係者
佐藤文子	登別市民生委員児童委員協議会（主任児童委員）	家庭教育活動者
吹越愛子	社会教育関係者（前婦大同窓会会長）	学識経験者
白田明義	登別市おにたま協議会副会長	学識経験者
畑山功一	登別市子ども地域交流プラザ運営委員会会長	学識経験者
川島芳治	登別市子ども会育成連絡協議会相談役	学識経験者
楠本賢一	らいば通り商店街振興組合理事長	学識経験者
千葉正俊	曹洞宗禅林寺住職	学識経験者

第4次登別市社会教育中期計画

平成23年3月発行

編集・発行

登別市教育委員会
登別市富士町7丁目33番地
(0143) 88-1129

印刷・装丁

登別市教育委員会

計画の内容

1. 青少年教育
2. 成人教育
3. 高齢者教育
4. 全世代教育
5. 家庭教育
6. 文化活動
7. 健康づくり・スポーツ
8. 学習環境の整備

〒059 - 0014
登別市富士町7 - 33
登別市教育委員会
社会教育グループ
電話: (0143) 88 - 1129
Fax: (0143) 85 - 9744